

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立穴道中学校

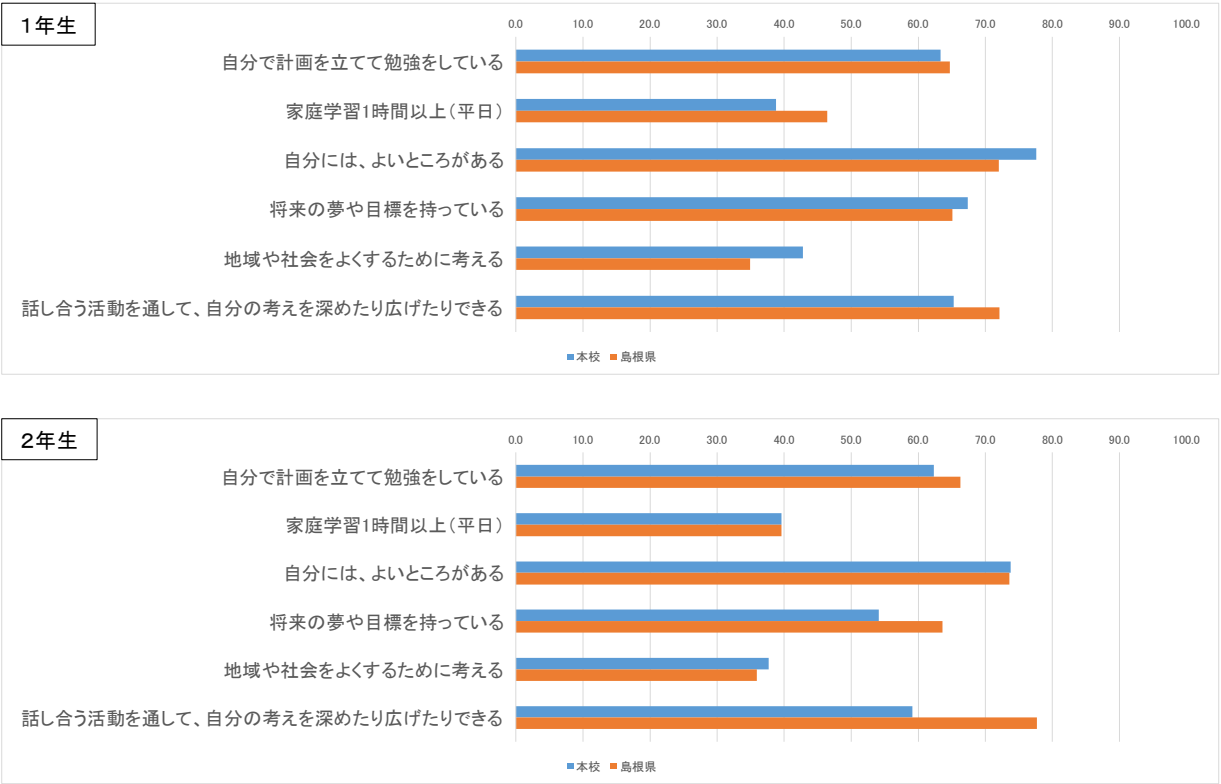
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○全体的に全国平均を上回っており、おおむね良好な状況である。特に、「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」については、10ポイント近く全国平均を大きく上回っている。 ●全国平均や目標値を下回っている領域はないが、「人通りがたえる」という漢字を書く問題の無回答率が34.7%と、どの設問よりも高かった。ICTの活用により、手書きで漢字を書く機会が減っているため、手書きの機会も確保していきたい。また、問題の本文を基に内容や心情を捉える問の解答にばらつきが見られるため、文章を読み取る際、解答の根拠を明らかにする活動を継続していきたい。	○全体的に全国平均と同等の状況であるが、「文章を書く」という問題については、目標値を5ポイント以上上回っている。 ●説明的な文章の内容を読み取る問題について、目標値・県平均・全国平均を大きく下回っていた。複数の情報から文章に書かれている内容を読み取る力を伸ばすため、授業でも本文だけでなく関連本や資料を用意し改善を図ってきたい。文章を書くことができる強みを生かして、論理の展開や文章の構成などにもう一度触れながら、全体的に「読むこと」の力を伸ばしていく必要がある。
数学	○「正負の数」「平面図形」の問題の多くは全国平均を上回っている。 ●「文字式」「1次方程式」「比例・反比例」に関する問題の多く目標値と同程度、もしくは下回る結果にあった。数量の関係を文字を用いて表すことや、1組のx,yの値や、グラフから比例・反比例の式を求める問題は特に正答率が低かった。これらの知識・技能は第2学年での学習でも、当然必要となるものであるため、文字を扱うことの必要性や意義を感じさせながら、反復的な演習も行い、理解の定着を図ってきたい。	○式の計算および1次関数については、全国・県平均を上回った。特に、関数領域では、実生活の中にある1次関数を取り上げたり、文章問題の作成を行ったりしたこと、身近な問題として捉えることができた。また、グラフテストを行ったことも効果的であった。 ●図形で、内角および外角の性質を使って、対頂角や平行線の錯角の関係をを用いて解く問題については、全国・県平均を下回った。補助線を引いたり、必要な情報を自分で導き出して解く問題には苦手意識があるため、授業の中でも丁寧に取り扱ってきたい。
英語	○観点「思考・判断・表現」の正答率が市町村平均よりも高い。「聞く」領域に強みが見られる。 ●全体として県平均よりも正答率が低い。正答率度数分布を見ると、30%と80%の正答率にピークが見られ、集団内での学力格差が見られる。学習に困難を抱える生徒への個別支援のほか、スモール・ステップによる細やかな課題を準備することで、集団全体の底上げを図るとともに、ALTを活用して英語でのコミュニケーション活動をより増やし、必要感のある英語学習を進めていきたい。	○語彙の知識・理解、さまざまな英文や長文の読み取り、場面に応じて書く英作文に関しては、島根県の平均正答率を上回っている。 ●聞き取り問題や語形・語法の知識・理解、3文以上の英作文などが島根県の平均正答率を下回っている。英文を聞いたり、さまざまな英文を読んだりして要点をつかむ学習を積極的に取り入れていきたい。また、英文の構造を十分理解していない生徒のために、並べ替え問題や穴埋め問題、英作文などさまざまな英文の構造をもう一度復習してきたい。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○自分のよさを自覚している生徒が多く、地域への貢献意識も高い。また、将来の夢や目標をもっている生徒の割合も県平均より多く、前向きな様子が見える。 ●家庭学習に自主的に取り組む生徒の割合は県平均と同様であるが、その時間が1時間に満たない生徒が多く、規則正しい就寝時間を守ることが難しい生徒もいる。どの教科においても、生徒間の学力差の開きが見られる。授業の中での個別支援を丁寧に積み重ねるとともに、学びのユニバーサルデザインの観点から全員が学習に前向きに取り組めるよう授業の工夫をすることで、学力格差を緩和し、学習への意欲を高めていきたい。	○「自分にはよいところがある」という回答の数値が県の平均並みの結果であったことから、自己肯定感が高いことがわかる。また、地域や社会をよくしようとする意識も高い。 ●自分で計画を立てて勉強したり、家庭学習を平日1時間以上学習している生徒が少ない。今後の進路実現のために、将来のことについて考え、自主的に学習していかないと習得化する力を身に付けさせたい。また、「話し合う活動で自分の考えを深めることができる」という項目の数値も低い。話し合いの活動を通して、他者の考えを聞いて自分の考えをさらに深めることができる生徒の育成に努めたい。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】 1年生 49 名 2年生 61 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)